てんずー新聞

'13.3 No.189
発行責任 市岡日出枝
0883-88-5292

節分がすぎても、何回も雪がちらつく。だけじゃなくて、数センチも積る。東北の様に五メートルもの雪ではないにしろ、もっ少々あきてくる。写真で見れば、雪景色はきれいです。その辺に置いてあるゴミの山だって、まっ白な雪でコーディネイトすれば、立派なアートとなってしまいますが…。
温度もマイナスが続く。ちょっと油断すれば、滑ってころびそうになる。
顔を出しはじめた、フキノトウもなかなか大きくならない。福寿草も、咲きはじめているが陽当りの良い所だけのようで、少し日陰げだと、なかなか花を開かない。
木々の芽もまだまだ小さい。

～大枝地区～

里からやってくる春

どう
きまぐれ

まだまだ先かな

柳もまだ小さなふくらみだ。
今日だって、向こうの尾根は白くなっている。
春一番は、一日に吹いたとラジオで言ってたけど、実感として"春"はまだまだ。
里からやってくる春。街へ行くと、確かに梅の花があちらこちらで目にするし、スイセンや菜の花の黄色が目にとまるく、道路ぞいでは、タンポポも咲いてきました。
春は、すぐそこに来てるんだなあ。
でも、ミソサザイやウグイスの声を聞かないとなあ。
モンキ蝶が飛んでないと春ではないし。
元気な祖谷のばあちゃん達は、それでも天気が二、三日続くと、クワを持って畑に出ています。もう、「ほど地」（ジャガ芋を植える地）ごしらえをはじめています。
口では、「せこい、せこい」（しんどい）言いながら、じっとはしていません。隣がはじめると言いながらの畑仕事。
力仕事が無理なばあちゃんは、人を雇って畑。
声をかけられる、ちょっと若い人は、春先の畑の種をまいてます。

～今井より 祖野を望む～

「今日」という「一日」

何んと言ったグループか忘れたけれど、「今日をいきよう」という歌があったとおもうけど。
きのうがあって「今日」はあるのだけれど、誰も気にしてない様に見えるけど、「明日」を約束されてる人なんて誰もありません。
だからこそ、「今日」という一日が大切なのだとおもいます。明日が来ることを信じて、今日という日をしっかり生きていければいいな